

特定非営利活動法人 WE 2 1 ジャパン・伊勢原

2019 年度 事業活動報告

1. 事業活動点検・評価

昨年度 3 月には「神奈川県指定 NPO 法人」の指定が得られ、今年度はそれをもとに「認定 NPO 法人」格取得の手続きを進めました。また「伊勢原市指定 NPO 法人」に関しては、伊勢原市議会 12 月定例会にて可決成立し、2020 年 1 月 23 日付で通知を受けました。さらに、2 月 13 日付で「認定特定非営利活動法人として認定した旨の通知書」をいただきました。これによって、当法人に対して寄付をいただいた寄付金額は、寄付者に対する税法上の優遇措置が得られ、寄付金額の 50%が税額から控除されることとなりました。つまり寄付金を募りやすくなりました。それに加えて「みなし寄付金制度」が活用できることになりました。これは、当団体のように事業収益がある NPO 法人に対して課される「法人税」に対する軽減措置です。「収益事業」に属する資産のうちから、「非収益事業」のために支出した金額を、「収益事業」から「非収益事業」への寄付金とみなして、200 万円を限度額として「損金算入」を認める制度です。これを活用すると、2019 年度から税額が大幅に軽減されることとなりました（2020 年 5 月末納税分より）。認定 NPO 法人格の取得により、税制優遇が受けられ、行政からも認められる NPO 法人となったということです。

WE ショップいせはらでは、近年、売上額の減少が続いていますが、リメイク品、フェアトレード品の販売を進めて、「民衆支援のチャリティショップ」の意義を地域社会に伝えていこうと努力しました。

2. 事業活動報告

(1) 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース事業）

- ①「WE ショップいせはら」の運営を行いました。
 - ・ 市民から寄付された提供品を整理・販売しました。
 - ・ エコものセンターの物流（キャリア便）を利用して、提供された品物を季節ごとに仕分けして、季節に合った品物を販売することに努めました。
 - ・ ここ数年、セール以外では全体的に衣類の売上額より、雑貨の売上額が上回っています。その要因として、衣類は提供されたものはある程度年数が経っているので、材質そのものは優れていてもデザインが古くなっているため、お客様の希望するものとは違っており売上げが伸びない結果となっていると思われます。その点、雑貨に関しては流行が少なく、良品も多いので比較的売上げに繋がりやすいと思います。
 - ・ いせはら市民活動サポートセンターを通して、市内の保育園より多量のバザー残り品の寄付を受けました。
 - ・ 最近、外国人のお客様が目立つようになり「リサイクルで安い店」として重宝されてい

るようで、値切られることもしばしばあります。しかし外国人の方にWEショップの事業を説明することは難しいことです。これからますます外国人のお客が多くなることを想定して、その対応を検討しておく必要があります。

- ・ 人員体制としては、新しいボランティアの方が2名増えたことはうれしいことです。しかし、長年WEショップの事業に携わってきたスタッフが、体調を理由に3月で退職し、4月から新しいスタッフが引き継ぐことになりました。
- ・ ボランティアミーティングは、主にボランティア同士の交流と意見交換の場として、5月と9月に開催しました。話し合った情報などは日々の業務に生かしていきました。
- ・ 資源の削減や、特にプラスチックによる環境汚染が問題になっていることから、お買い上げの際にはお手持ちのエコバッグ等の使用を呼びかけました。お持ちでない方には紙の袋で対応しました。(2020年1月より)

	昨年度実績
営業日数： 284日	(281日)
売上： 5,210,006円 (月平均434,167円)	(5,383,270円)
来客数： 延 9,206人 (月平均767)	(9,000人)
提供者数： 延 2,014人 (月平均167人)	(1,934人)
ボランティア：延 712人 (月平均59人)	(759人)

- ・ 次の企画を行いました。

2019年 5/1.2	春物セール	(売上金額 65,865円)
6/24	開店26周年記念セール	(売上金額 72,149円)
7/31~8/2	夏物半額セール	(売上金額 111,020円)
9/17~19	アクセサリ&バックフェア	(売上金額 885,860円)
10/16.17	貧困キャンペーン	(売上寄付 41,130円)
11/27~30	冬物半額セール	(売上金額 133,850円)
12/23・24	年末セール	(売上金額 78,560円)
2020年 1/7	初売り(お年玉チケットを配布)	
2/3~5	和物フェア	(売上金額 137,420円)

② 寄付された品物で販売に適さないものは適正に処理をしました。

- ・ 衣類・カバンは、WE21ジャパンが提携しているW.C.オキャリーの運送に託し、(株)ナカノのファイバー工場へ搬入しました。
- ・ 今年度から事業系廃棄物処理が有料となったことから、(有)タチオカと契約し可燃ごみ(1袋500円)・不燃ごみ(2袋分1000円)を分別し排出しました。
- ・ 綿製品のファイバーの一部は、小規模多機能施設「風の丘」でウエスとして利用していただきました。(1袋200円で売却)
- ・ むいぐるみは、5月の環境展、11月のサポセンフェスタの景品、また障がい者地域作業所「工房小野橋」で活用していただきました。

③ 資源の活用や民衆支援のために利用できるものの集積場所としてショップを活用しました。

- ・ 世界の子どものために使われている「ユニセフ外国コイン募金」の収集に協力しまし

た。

④ リメイクチームが活動しました。

リメイクチームは、販売に適さないシミや汚れのある布、使いかけの毛糸などをポーチやアクセサリにリメイクし販売につなげました。さらに、3月末からはマスク作りに力をいれ、お客様に喜ばれました。

毎月第1日曜日の午後、ショップバックヤードにて行いました。

4月1日(日)	ふくろうブローチ	7名
6月2日(日)	お手玉	6名
7月7日(日)	小物入れ	9名
9月1日(日)	リメイクアクセサリ	8名
10月6日(日)	リメイクアクセサリ	8名
11月3日(日)	布チョッキンのセットづくり	7名
1月26日(日)	和ものフェア準備	9名
2月2日(日)	トンボブローチ	7名

⑤ スムーズなショップ運営と事業経営のため、WE21ジャパン主催の講座等に参加し、情報収集に努力しました。

県央ショップスタッフ連絡会 6月14日、9月20日、2月14日(1名参加)

《日時》	通年
《場所》	伊勢原市石田(WEショップいせはら)
《従事者》	理事 7名、ボランティア 実人数 15名
《受益対象者》	主に伊勢原市石田周辺在住の市民 顧客数 9,206名、 寄付者数 2,014名
《支出額》	4,612,413円

(2) アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業(民際支援)

① WE21ジャパン・伊勢原の支援事業

2019年度の民際支援費は、国外に290,163円、国内に78,065円、合計368,228円(前年度318,281円)で、前年度より約5万円の増額となりました。これは、認定NPO法人となったことにより、税額が減少したことによります。

支援先・金額等の討議決定は、理事会で行いました。支援先の担当者を決めて分担して対応することとしましたが、不十分でした。

●2019年9月30日、2020年3月25日

団体名：特定非営利活動法人ザ：ピープル

国名：日本(福島県)

金額：48,065円

売上金 (2019年9月11日:14,470円、2020年3月11日:25,470円)

店頭募金 8,125円

内容:東日本大震災復興支援(福島県いわき市で古着のリユース・リサイクル事業を行なっている法人の活動、特に震災後は地域農業振興のためコットンを栽培して綿製品の生産をめざすコットンプロジェクトを実施している)

継続:8年目

●2019年11月21日、2020年3月11日

団体名:幼い難民を考える会(CYR)

国名:カンボジア

金額:81,000円

布チョッキン31,000円(お人形12体・ボール38個)、助成金50,000円

内容:内戦によるカンボジアの難民キャンプの子どもたちへの支援活動。難民の女性と子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立支援を行っている。

2019年度の「布チョッキン」は、10月の「貧困なくそうキャンペーン」の期間に、布ボールの裁断は店頭でお客さんとボランティアの方に、お人形の裁断はリメイクチームの方に協力いただいて実施した。

継続:初めて

●2020年1月30日、3月31日

団体名:日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)

国名:イラク・シリア・日本(福島)

金額:52,900円(チョコ募金22,900円、助成金30,000円)

内容:チョコ募金(イラク・福島の子どもたちとシリアの難民を支援するための募金)に協力、及び活動に対する支援金は、イラク小児がん支援、イラクに逃れてきたシリア難民妊産婦やイスラム国の迫害にあった女性たちの支援などを行っている。

継続:4年目

●2020年3月10日

団体名:F GM廃絶を支援する女たちの会(WAAF)

国名:2019年度の反FGM基金の支援先は未定

金額:70,000円(反FGM基金40,000円、日本支部30,000円)

内容:アフリカの少女たちの健康と人権を守るため、女性器切除という悪習を廃絶するための活動。日本支部の活動は、ゼロトレランスデー記念行事、ニュースレター発行等。

継続:16年目

●2020年3月4日、9日、11日

団体名:日本国際ボランティアセンター(JVC)

国名:アフガニスタン

金額:66,263円(アジア・友だち・みらい貯金16,263円、助成金50,000円)

内容:アフガニスタンにおける地域教育/識字アクション、ピースアクション

村人パートナーグループの結成、識字教育教員の選定、教員研修、教室運営、啓発

活動を計画的に実施した。

継続：3年目

●2020年3月11日

団体名：シュントック財団（WE21 ジャパンBGA支援連絡会に参加、集約）

国名：フィリピン

金額：50,000円（助成金）

内容：フィリピンのベンゲット州ルボ村で、無責任な鉱山開発のために破壊された土地の環境回復のため、植林を中心とした環境回復活動、環境教育キャンペーン、住民組織の能力の向上等を行う。

継続：4年目

② フェアトレード品等の販売

- ・ジンジャーティ（フィリピン）、シサムコーヒー（フィリピン）、オリーブ石けん（パレスチナ）の販売をしました。
- ・「第3世界ショップ」から、チョコレート、ドライフルーツ、カレー、ココア、チャイパック等を卸購入し販売しました。

③ 支援の充実のためWE21 ジャパン主催等の講座や学習会、NGO等の報告会に参加し、情報収集に努力しました。（主催の記載がないものは、WE21 ジャパン主催）

5月18日 WE21 ジャパン総会記念講演会

「地雷なき地球を目指して」講師：清水俊弘さん（地雷廃絶日本キャンペーン）

5月21日 コーヒーの森づくり事業連絡会

6月17日 コーヒーの森づくり事業連絡会

6月28日 ジンジャーティミーティング

7月23日 JICA コーヒーの森づくり事業報告会

8月26日 平塚よこち子ども食堂見学

8月29日 TICAD 公式サイドイベント「SDGsとアフリカ開発～私たちの暮らしから考える～」参加

9月6日 コーヒーの森づくり事業連絡会、ジンジャーティミーティング

9月19日 グリーンダウンプロジェクト研修会

11月8日 緊急フォーラム「IR整備法ってなあに？私たちの生活や街がどう変わるの？」参加（WE平和政策チーム）

11月22日 コーヒーの森づくり事業連絡会、ジンジャーティミーティング

12月5日 慶南地域自活センター交流会

1月23日 新民際協力ハンドブック学習会

1月30日 アフガニスタン連絡会

2月11日 WE21 ジャパン新春の集い

2月21日 ジンジャーティミーティング

3月19日 アフガニスタン連絡会

《日時》	通年
《場所》	アジア・アフリカ地域、伊勢原市、いわき市
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	アジア・アフリカ地域の団体、全国、神奈川県内、福島県いわき市内
《支出額》	511,139 円

(3) 地域市民の国際的な意義の自覚を促進する事業（共育活動）

支援事業・資源循環事業を推進していくうえで必要な情報を共有する場として「WE講座」を3回開催しました。また、1か月間のフードドライブを2回実施して食料品を届けました。

●2019年5月24日（金）

「アフガニスタンの現状と活動報告 ～特に女性や子どもたち」

講師：加藤真希さん（JVC アフガニスタン担当）

参加者：17名

内容：アフガニスタン地域教育／識字アクションとピースアクション（資料P ）

●2019年9月26日（木）

「カンボジアの子ども達とお母さん達のために ～村の幼稚園、都市スラムの保育園支援」

講師：関口晴美さん（幼い難民を考える会（CYR）事務局長）

参加者：15名

内容：ポル・ポト時代と内戦の負の遺産が復興の足かせをなっているカンボジアで、子ども達の教育のために幼稚園を建設、お母さんたちの自立を促す活動を実施。

●2019年10月、2020年2月

「NPO 法人フードバンクひらつか」へ食料品を寄付

2019年10月と2020年2月に、ショップにてフードドライブを実施。お客様やメンバーからご寄付された食料品などを段ボール箱2箱程度持ち込みました。「フードバンクひらつか」では、平塚市、社協などから依頼のある生活困窮世帯やひとり親家庭等に食料品を届けています。

●2020年2月28日（金）

「放射能汚染から子どもたちを守る」

報告者：斉藤亮平さん（JIM-NET 海外支援担当）

参加者：13名

内容：1991年の湾岸戦争以降、イラクでのガンや白血病の子ども達が増えており、特に劣化ウラン弾による奇形の発生、小児ガンは日本の1.9倍の発生。精神的ケアとして宿泊所の提供、子どもたちへの学習支援のために「JIM-NET ハウス」の建設などの活動報告

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事 7 名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	20,312 円

(4) この法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

- ① WE 21 ジャパン・伊勢原のHPに活動予定や報告を掲載しました。
- ② WE 21 ジャパン・伊勢原の活動を伝える「WEニュース」を発行しました。
年4回、会員や関係団体と、店頭にてお客様に手渡しました。特に、No. 57、58 は、各 1000 部を印刷し、近隣地域にポスティングしました。

「WEニュースCM版」は、随時市内に配布しました。(約 3,000 部配布)

No. 57 (2019 年 6 月 7 日発行)

開店記念セールお知らせ、2018 年度支援先情報等

No. 58 (2019 年 7 月 24 日発行)

夏の半額セールお知らせ、2018 年度支援先情報等

No. 59 (2019 年 9 月 8 日発行)

WE 講座「カンボジアの子ども達とお母さん達のために」案内

No. 60 (2020 年 1 月 28 日発行)

WE 講座「放射能汚染から子どもたちを守る」案内

店内の掲示・パンフ類は、国内外の支援先の情報を掲示しました。

キャンペーン、WE 講座、セール等の案内の掲示を行ないました。

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事 7 名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	32,058 円

3. 事業を進めるための組織活動

1) 伊勢原市指定 NPO 法人格・認定 NPO 法人格の取得

市指定及び認定 NPO 法人格取得のための手続きを進め、伊勢原市指定は、2020 年 1 月、神奈川県認定 NPO 法人は、2020 年 2 月に取得しました。

2) 組織活動

- ・理事会は、毎月、原則として第1土曜日午前で開催し、計画に沿って提案・討議し、実行しました。
- ・会員数は32名です。新規のボランティアの方に積極的に入会を募りました。(目標は40名)

3) WE 2 1 ジャパンおよびWE 2 1 地域NPOとの連携

- ・WE 2 1 ジャパンの団体会員になっています。(団体会費 50,000 円)
- ・WE 2 1 ジャパンとの契約に基づき、年額 504,349 円(物流事業費 311,749 円、商標使用料 120,000 円、活動推進費 72,600 円)を、WE 2 1 ジャパンに事業委託しました。(昨年度は年額 518,106 円)。WE 2 1 ジャパンでは、WE 2 1 地域NPOの中間支援組織としての活動経費(人件費、事務所費、広報、情報の収集・分析・発信)、および物流管理などの事業を行っています。
- ・代表・会計担当者・スタッフ・ボランティアが、WE 2 1 ジャパン理事会、グループ会議、WEフェスタ、支援連絡会、講演会・学習会・報告会等に参加・協力しました。特に、2019年11月2日開催のWEフェスタには、実行委員1人、ボランティア3人が倉庫での仕分けと値付け、当日のボランティアで参加協力しました。(延べ12回)

4) 地域および他団体との連携

- ・県立伊勢原養護学校伊志田分教室の生徒2名のインターンシップ研修に協力しました。4月から、長期休業の期間を除き、毎週火曜・木曜の10時より12時まで、担当の教師と連絡を密にして、トラブルもなく協力できました。
- ・市内の環境に関わる活動を行っている団体の連携組織である「いせはら環境ネットワーク」(エコネット)に参加しました。
 - 5月12日 環境展に出店参加
 - 7月13日 総会及び講演会参加
 - 11月16日 ストップ温暖化展出店参加
- ・市民活動サポートセンターに登録して、印刷機等を利用しました。
 - 11月20日 市民活動サポセンフォーラムでは、フェアトレードに関する説明を中心に活動報告をさせていただきました。
- ・石田商工振興会に加入しています。以下の行事に参加・協力しました。
 - 8月10日 納涼祭(子安神社)
 - 1月12日 どんど焼き(城ノ腰公園)
- ・石田自治会に加入しています。

5) 納税額

2018年度の税金は、192,900円(前年度は189,800円)を支払いました。

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	151,068 円